

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : May-Grünwald solution for SP Automated Systems
製品コード : 750100
SDS 整理番号 : 750100

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 実験試薬として使用すること。
使用上の制限 : In vitro diagnostic medical device.

会社情報

製造業者

RAL DIAGNOSTICS
33650
FRANCEMARTILLAC Site Montesquieu
T 33 05 57 96 04 04 - F 33 05 57 96 04 05
commercial@cellavision.com - www.cellavision.com

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 2
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分 3
	急性毒性 (経皮)	区分 3
	急性毒性 (吸入)	区分 3
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP) : 危険
危険有害性 (GHS JP) : 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)
飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合や吸入した場合は有毒
(H301+H311+H331)
臓器の障害 (H370)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 熱、火花、裸火、熱表面から遠ざけること。一禁煙。(P210)
スプレー、ミスト、ヒューム、気体、粉じん、蒸気の吸入を避けること。(P261)
取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)
適切な保護手袋、保護服、眼の保護、顔面の保護を着用すること。(P280)
応急措置 : 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)
ばく露又はばく露の懸念がある場合 : ポイズンセンター、医師に連絡すること。
(P308+P311)

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

処理時の追加危険有害性 : 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
別名 : Blue méthylène-éosine solution

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
methanol	> 95	CH4O	(2)-201	既存化学物質	67-56-1

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般 : 直ちに医師の診察を受ける。
吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
医者と呼ぶ。
皮膚に付着した場合 : 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
眼に入った場合 : 予防措置として眼を水ですすぐ。
飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
直ちに医師の診察を受ける。
応急措置をする者の保護 : 応急措置を行う者は、自身の保護に注意を払い、推奨される個人用保護具を使用すること（第 8 項を参照）。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合 : 吸入すると有毒。
症状/損傷 皮膚に付着した場合 : 皮膚に接触すると有毒。
症状/損傷 眼に入った場合 : 通常の条件下では特に無し。
症状/損傷 飲み込んだ場合 : 飲み込むと有毒。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
火災危険性 : 引火性の高い液体及び蒸気。
爆発の危険 : 直接に爆発する危険は全くない。
火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。
消火方法 : 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置
- ：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
 - ：本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
 - ：物的損傷を防止するためにも流出したものを回収すること。

非緊急対応者

- 保護具
- ：推奨される個人用保護具を着用する。
- 応急処置
- ：漏出エリアを換気する。
 - ：裸火、火花禁止、禁煙。
 - ：粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 - ：皮膚、眼、あるいは衣服との接触を避ける。

緊急対応者

- 保護具
- ：適切な保護具を着用して作業する。
 - ：詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
- 応急処置
- ：不要な職員を退避させる。
 - ：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項
- ：環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法
- ：砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。
 - ：流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。
 - ：可能であればリスクなく漏出をせき止める。
- 浄化方法
- ：吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。
 - ：本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
- その他の情報
- ：物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- ：データなし
- 安全取扱注意事項
- ：熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
 - ：容器を接地すること／アースをとること。
 - ：火花を発生させない工具を使用すること。
 - ：静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 - ：引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。
 - ：防爆型装置を使用する。
 - ：個人用保護具を着用する。
 - ：粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 - ：眼、皮膚、衣類につけないこと。
 - ：屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 接触回避
- ：データなし
- 衛生対策
- ：汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
 - ：この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 - ：製品取扱い後には必ず手を洗う。

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

処理時の追加危険有害性	: 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。
保管	
安全な保管条件	: 換気の良い場所で保管すること。 涼しいところに置くこと。 容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	: データなし
技術的対策	: 容器を接地すること／アースをとること。
容器包装材料	: 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。
保管温度	: 15 – 25 °C

8. ばく露防止及び保護措置

methanol (67-56-1)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	メタノール # Methanol
許容濃度	260 mg/m ³
	200 ppm
特記事項 (JP)	経皮吸収; 生殖毒性分類 2
規則参照	許容濃度等の勧告 (2025 年度) 産衛誌 67 巻
日本 - ばく露限界値 (管理濃度(厚生労働省))	
現地名	メタノール # Methanol
管理濃度	200 ppm
規則参照	作業環境評価基準 平成 29 年度版
日本 - 生物学的ばく露指数 (日本産業衛生学会)	
現地名	メタノール # Methanol
BEI (BLV)	20 mg/l 測定対象物質: メタノール - 測定対象試料: 尿 - 試料採取時期: 作業終了時
規則参照	許容濃度等の勧告 (2025 年度) 産衛誌 67 巻
日本 - ばく露限界値	
管理濃度	200ppm
許容濃度(産衛学会)	200ppm(260mg/m3)(皮)
許容濃度(ACGIH®)	TWA 200 ppm, STEL 250 ppm (Skin)

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

個人用保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。
呼吸用保護具	: [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	: 保護用手袋
眼の保護具	: 安全メガネ
皮膚及び身体の一部の保護具	: 適切な保護衣を着用する。
環境へのばく露の制限と監視	: 環境への放出を避けること。

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 濃紺色
臭い	: アルコール臭
pH	: 5.8 – 7.2
融点	: < -90 °C
凝固点	: < -90 °C
沸点	: 66 °C
引火点	: 12 °C
自然発火点	: 452 °C
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし、引火性の高い液体及び蒸気
蒸気圧	: 127.1 mbar
相対蒸気密度 (20°C)	: 0.14
相対密度	: 0.8
飽和ガス/空気混合気体の相対密度	: 1.01
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (Vol-%)	: データなし
爆発下限界	: 5.8 Vol-%
爆発上限界	: 45.3 Vol-%
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 引火性の高い液体及び蒸気。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 飲み込むと有毒
急性毒性 (経皮)	: 皮膚に接触すると有毒
急性毒性 (吸入)	: 吸入すると有毒

May-Grünwald solution for SP Automated Systems	
ATE JP (経口)	100 mg/kg bodyweight
ATE JP (経皮)	300.661 mg/kg bodyweight
ATE JP (ガス)	700 ppmv/4h
ATE JP (蒸気)	3 mg/l/4h

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

May-Grünwald solution for SP Automated Systems	
ATE JP (粉じん、ミスト)	0.5 mg/l/4h
methanol (67-56-1)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値 6200 mg/kg (EHC 196 (1997)) および 9100 mg/kg (EHC 196 (1997)) から区分外と判断されるが、メタノールの毒性はげっ歯類に比べ霊長類には強く現れるとの記述があり (EHC 196 (1997))、ヒトで約半数に死亡が認められる用量が 1400 mg/kg であるとの記述 (DFGOT vol.16 (2001)) があることから、区分 4 とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 値、15800 mg/kg (DFGOT vol.16 (2001)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 値>22500 ppm (4 時間換算値 : 31500 ppm) (DFGOT vol.16 (2001)) から区分外とした。なお、飽和蒸気圧濃度は 116713 ppmV であることから気体の基準値で分類した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	1187 – 2769 mg/kg bodyweight Animal: rat
LD50 経口	1400 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	300 mg/kg Source: ECHA
LD50 経皮	15800 mg/kg
LC50 吸入 - ラット (蒸気)	22500 ppmv

皮膚腐食性／刺激性 : データなし

May-Grünwald solution for SP Automated Systems	
pH	5.8 – 7.2
methanol (67-56-1)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギに 20 時間閉塞適用の試験で刺激性がみられなかった (DFGOT vol.16 (2001)) とする未発表データの報告はあるが、皮膚刺激性試験データがなく分類できない。なお、ウサギに 24 時間閉塞適用後、中等度の刺激性ありとする報告もあるがメタノールによる脱脂作用の影響と推測されている (DFGOT vol.16 (2001))。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : データなし

May-Grünwald solution for SP Automated Systems	
pH	5.8 – 7.2
methanol (67-56-1)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた Draize 試験で、適用後 24 時間、48 時間、72 時間において結膜炎は平均スコア (2.1) が 2 以上であり、4 時間まで結膜浮腫が見られた (スコア 2.00) が 72 時間で著しく改善 (スコア 0.50) した (EHC 196 (1997))。しかし、7 日以内に回復しているかどうか不明なため、細区分せず区分 2 とした。

呼吸器感作性 : データなし

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

methanol (67-56-1)	
呼吸器感作性	データなし。

皮膚感作性 : データなし

methanol (67-56-1)	
皮膚感作性	モルモットを用いた皮膚感作性試験 (Magnusson-Kligman maximization test) で感作性は認められなかったとの報告 (EHC 196 (1997)) に基づき、区分外とした。なお、ヒトのパッチテストで陽性反応の報告が若干あるが、他のアルコールとの交差反応、あるいはアルコール飲用後の紅斑など皮膚反応の可能性もあり、メタノールが感作性を有するとは結論できないとしている ((DFGOT vol.16 (2001))) 。

生殖細胞変異原性 : データなし

methanol (67-56-1)	
生殖細胞変異原性	マウス赤血球を用いた in vivo 小核試験 (体細胞 in vivo 変異原性試験) において、吸入暴露で陰性 (EHC 196 (1997))、腹腔内投与で陰性 (DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (5th, 2001))、であることから区分外とした。なお、マウスリンフォーマ試験の代謝活性化 (S9+) のみで陽性結果 (EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)) はあるが、その他 Ames 試験 (EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (5th, 2001)) やマウスリンフォーマ試験 (EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)) や CHO 細胞を用いた染色体異常試験 (DFGOT vol.16 (2001)) など in vitro 変異原性試験では陰性であった。

発がん性 : データなし

methanol (67-56-1)	
発がん性	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) による未発表報告ではラット・マウス・サルの試験で発がん性なしとしている (EHC 196 (1997))。また、ラットを用いた 8 週齢より自然死するまで飲水投与した試験で、雌雄に頭部と頸部のがん及び雌に血液リンパ網内系腫瘍の発生が有意かつ用量依存的に増加したと報告されている (ACGIH (2009))。しかし腫瘍の判定が標準的方法と異なり、動物の自然死後に行われていないため、評価あるいは比較が困難と考えられる。以上の相反する情報により分類できない。

生殖毒性 : データなし

methanol (67-56-1)	
生殖毒性	妊娠マウスの器官形成期に吸入暴露した試験において、胎児吸収、脳脱出などが見られ [PATTY (5th, 2001)]、さらに別の吸入または経口暴露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている [EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)]。メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、ヒトのデータは欠如しているが動物による影響は明確な証拠があることから、暴露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性があるとは結論されている [NTP-CERHR Monograph (2003)]。以上によりヒトに対して生殖毒性があると考えられる物質とみなされるので区分 1B とした。
LOAEL(動物/オス、F0/P)	1700 ネズミ
NOAEL(動物/オス、F0/P)	< 1000 mg/kg bodyweight Animal: mouse, Animal sex: male

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

methanol (67-56-1)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、クスマウル呼吸、クスマウル昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている（DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997)）。また、中枢神経系の障害、とくに振せん麻痺様錐体外路系症状の記載（DFGOT vol.16 (2001)）もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている（DFGOT vol.16 (2001)）。これらのヒトの情報に基づき区分 1(中枢神経系)とした。標的臓器としてさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もあるので全身毒性をそれぞれ採用した。一方、マウスおよびラットの吸入ばく露による所見に「麻酔」が記載され（EHC 196 (1997)、PATTY (5th, 2001)）、ヒトの急性中毒に関する所見にも、中枢神経系の抑制から麻酔作用が生じていると記述されている（PATTY (5th, 2001)）ので、区分 3（麻酔作用）とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : データなし

methanol (67-56-1)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトの低濃度メタノールの長期暴露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述（EHC 196（1997））や職業上のメタノール暴露による慢性毒性影響として、失明がみられたとの記述（ACGIH（7th, 2001））から区分 1（視覚器）とした。また、メタノール蒸気に繰り返し暴露することによる慢性毒性症例に頭痛、めまい、不眠症、胃障害が現れたとの記述（ACGIH（7th, 2001））から、区分 1（中枢神経系）とした。なお、ラットを用いた経口投与試験で肝臓重量変化や肝細胞肥大（PATTY（5th, 2001）、IRIS（2005））などの報告があるが適応性変化と思われ採用しなかった。

誤えん有害性 : データなし

methanol (67-56-1)	
誤えん有害性	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般 : 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。

水生環境有害性 短期（急性） : データなし

水生環境有害性 長期（慢性） : データなし

methanol (67-56-1)	
水生環境有害性 短期（急性）	魚類（ブルーギル）での 96 時間 LC50 = 15400 mg/L（EHC 196, 1998）、甲殻類（ブラウンシュリンプ）での 96 時間 LC50 = 1340 mg/L（EHC 196, 1998）であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急性毒性区分外であり、難水溶性ではない（水溶解度=1000000 mg/L（PHYSPROP Database、2009））ことから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	15400 mg/l Source: ECHA

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

methanol (67-56-1)	
EC50 - 甲殻類 [1]	1340 mg/l
EC50 96h - 藻類 [1]	22000 mg/l Source: ECHA
NOEC (慢性)	208 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna Duration: '21 d'
NOEC 魚 慢性	446.7 mg/l Test organisms (species): Pimephales promelas Duration: '28 d'
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.77 Source: HSDB, ChemIDplus

残留性・分解性

May-Grünwald solution for SP Automated Systems	
残留性・分解性	急速分解性あり
methanol (67-56-1)	
残留性・分解性	易生分解性。

生体蓄積性

May-Grünwald solution for SP Automated Systems	
生体蓄積性	データなし
methanol (67-56-1)	
生体蓄積性	生物蓄積性はない。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.77 Source: HSDB, ChemIDplus

土壤中の移動性

May-Grünwald solution for SP Automated Systems	
土壤中の移動性	データなし
methanol (67-56-1)	
土壤中の移動性	2.75 Source: HSDB
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.77 Source: HSDB, ChemIDplus

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : データなし

その他の有害な影響

その他の有害な影響 : Not release to the environment.

13. 廃棄上の注意

- 推奨製品/梱包処分 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
- 廃棄方法 : Dispose in a safe manner in accordance with local/national regulations.
許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
- 残余廃棄物 : 本製品の廃棄物は、製品自体と同様に有害であり、環境への影響も同様に考慮する必要がある。
廃棄物の管理および処理は、製品本体で定められた方法に従うこと。

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

UN RTDG / IMDG / IATA に準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号 (UN RTDG)	: 1230
正式品名 (UN RTDG)	: メタノール (methanol)
容器等級(UN RTDG)	: II
輸送危険物分類 (UN RTDG)	: 3 (6.1)
危険物ラベル (UN RTDG)	: 3, 6.1



クラス (UN RTDG)	: 3
副次危険性 (UN RTDG)	: 6.1
少量危険物 (UN RTDG)	: 1L
微量危険物 (UN RTDG)	: E2
包装指令 (UN RTDG)	: P001、IBC02
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/要件 (UN RTDG)	: T7
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/特別要件 (UN RTDG)	: TP2

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG)	: 1230
正式品名 (IMDG)	: METHANOL (methanol)
容器等級(IMDG)	: II
輸送危険物分類 (IMDG)	: 3 (6.1)
危険物ラベル (IMDG)	: 3、6.1



クラス(IMDG)	: 3
副次危険性 (IMDG)	: 6.1
特別規定 (IMDG)	: 279
少量危険物(IMDG)	: 1 L
微量危険物(IMDG)	: E2
包装要件(IMDG)	: P001
IBC 包装要件(IMDG)	: IBC02
ポータブルタンク包装規定 (IMDG)	: T7
輸送特別規定-タンク(IMDG)	: TP2

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

緊急時計画番号(火災)	: F-E
緊急時計画番号(流出)	: S-D
積載区分 (IMDG)	: B
積載および取り扱い(IMDG)	: SW2
引火点 (IMDG)	: 12°C c.c.
特性および観察結果 (IMDG)	: Colourless, volatile liquid. Flashpoint: 12°C c.c. Explosive limits: 6% to 36.5%. Miscible with water. Toxic if swallowed; may cause blindness. Avoid skin contact.
緊急時応急措置指針番号	: 131

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA)	: 1230
正式品名 (IATA)	: Methanol (methanol)
容器等級 (IATA)	: II
輸送危険物分類 (IATA)	: 3 (6.1)
危険物ラベル (IATA)	: 3、6.1



クラス (IATA)	: 3
副次危険性 (IATA)	: 6.1
PCA 微量危険物(IATA)	: E2
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	: Y341
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量 (IATA)	: 1L
PCA 包装要件(IATA)	: 352
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	: 1L
CAO 包装要件(IATA)	: 364
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	: 60L
特別規定(IATA)	: A113
ERG コード (IATA)	: 3L

海洋汚染物質	: 非該当
--------	-------

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質
非該当

国内規制

緊急時応急措置指針番号	: 131
その他の情報	: 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	: 第 2 種有機溶剤等（施行令別表第 6 の 2 ・有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第 4 号） 作業環境評価基準（法第 6 5 条の 2 第 1 項） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 0 条別表第 2）
---------	--

安全データシート

May-Grünwald solution for SP Automated Systems

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

【改正後 令和 9 年 4 月 1 日以降】

名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 0 条別表第 2）

危険物・引火性の物（施行令別表第 1 第 4 号）

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 4 条の 2 別表第 2）

メチレンブルー（別表の番号：2170）（5%未満）

メタノール（別表の番号：2006）（90%以上）

【改正後 令和 9 年 4 月 1 日以降】

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 4 条の 2 別表第 2）

メチレンブルー（別表の番号：2170）（5%未満）

メタノール（別表の番号：2006）（90%以上）

特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者（法第 6 6 条第 2 項、施行令第 2 2 条第 1 項）

皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質（安衛則第 5 9 4 条の 2 第 1 項、令和 4 年 5 月 3 1 日基発 0 5 3 1 第 9 号、令和 7 年 1 1 月 1 8 日告示第 3 0 1 号・第 2 号、令和 7 年 1 1 月 1 8 日基発 1 1 1 8 第 2 号、厚生労働省 H P 皮膚等障害化学物質の一覧）

消防法	：第 4 類引火性液体、アルコール類（法第 2 条第 7 項危険物別表第 1・第 4 類）
大気汚染防止法	：特定物質（法第 1 7 条第 1 項、施行令第 1 0 条） 揮発性有機化合物（法第 2 条第 4 項）（環境省から都道府県への通達）
海洋汚染防止法	：有害液体物質（Y 類物質）（施行令別表第 1）
外国為替及び外国貿易法	：輸入貿易管理令第 4 条第 1 項第 2 号輸入承認品目「2 の 2 号承認」 輸出許可貨物・補完品目（キャッチオール規制）（法第 4 8 条第 1 項、輸出令第 1 条別表第 1 の 1 6 の項（2）） 輸出承認貨物・特定有害廃棄物等（法第 4 8 条第 3 項、輸出令第 2 条別表第 2 の 3 5 の 2 の項）
船舶安全法	：引火性液体類（危規則第 2、3 条危険物告示別表第 1）
航空法	：引火性液体（施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1）
港則法	：その他の危険物・引火性液体類（法第 2 1 条第 2 項、規則第 1 2 条、危険物の種類を定める告示別表）
道路法	：車両の通行の制限（施行令第 1 9 条の 1 3、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第 1 2 号・別表第 2）
特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）	：特定有害廃棄物（法第 2 条第 1 項第 1 号イ、平成 3 0 年 6 月 1 8 日省令第 1 2 号）
労働基準法	：疾病化学物質（法第 7 5 条第 2 項、施行規則第 3 5 条別表第 1 の 2 第 4 号 1）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。